

大学の世界展開力強化事業  
(2015年度採択)  
2019年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会  
2019年10月24日  
独立行政法人 日本学術振興会

## フォローアップの総括

2015年度に採択された11件のプログラムについて、①交流プログラムの内容、②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成、③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備、④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及の各観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績（派遣・受入学生数）等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。

2018年度の各プログラムの状況を見ると、語学学修向上のための取組や、受入・派遣報告会の実施など、新たな参加学生の獲得に向けた様々な活動が行われている。また、交流相手先である中南米諸国やトルコの大学との間でオンラインによる遠隔講義も積極的に実施されており、様々な手法による交流活動が推進されていることが確認できた。

事業全体で見ると、単位取得を伴う派遣学生数は前年度と同水準であった一方で、受入学生数は事業開始時と比較しておよそ5倍にまで拡大している。

本事業の支援は最終年度を迎えたが、これまでの取組内容や成果を基に、自立に向けたプログラム運営が行われていくことが期待される。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

# 取組の進捗状況

## ① 交流プログラムの内容

### 主たる交流先：中南米

#### 山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校

短期受入ワークショップにおいて、短期派遣志望学生も参加し南米学生とまとめの議論と発表を行った。日本人学生にとっては事前学習の機会になり、スペイン語学習意欲も高まった。また、各人の活動状況は短期派遣選抜の参考材料にもなった。なお、長期派遣のうち1名、長期受入のうち2名は前年度短期プログラムの参加者である。

#### 東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学

連携3大学が協働することにより、事前教育ではそれぞれの教員が各大学の特色を活かした授業を行うなど、連携のメリットを享受した。教育効果が最大限になるよう入念に計画された体系的なプログラムを実施することで、単なる語学留学にとどまらない明確な目的意識を持った留学を実施した。さらに、ダブルディグリープログラムを開始し、学生1名を派遣した。中南米の大学とのダブルディグリープログラムは本邦でも稀有な事例であると言える。

#### 上智大学、南山大学、上智大学短期大学部

派遣プログラムでは長期留学生数が前年度比で3名増加しており、プログラムの周知が進んでいる。また、ハベリアーナ大学スペイン語集中コースは、短期プログラム参加後長期留学に挑戦するモデルケースとなっている。一方、受入プログラムではマルチキャンパスプログラムが確立した。

### 主たる交流先：トルコ

#### 東京大学、東京工業大学

現地日系企業の海外オフィス・現場訪問により駐在員や協力社員の実際の様子を学ぶことで、参加学生は海外で活動することに対する意欲を高めた。受入中、学生を含めた関係者が大使館主催のレセプションに招待されるなど、事業の認知度及び関係機関との連携が深まっている。

#### 東京藝術大学

治安状況を勘案し前年度は原則中止していた学生派遣を再開させ、7名の学生が短・長期の留学中に連携大学での学修・制作のほかワークショップへの参加などにより、質の保証を伴う国際共同の人材育成プログラムとしてトルコ・イスラエルの芸術文化や中東地域の社会環境等を深く学修した。

#### 新潟大学、福島大学

トルコからの学生受入の際には、プログラムに添った学びだけでなく、積極的に両国学生の交流の場を設けた。これは短期派遣学生を中心に企画・実施したもので、互いの文化や考え方の違いを理解し合う貴重な機会となった。トルコへの学生派遣時には逆に多くのトルコ人学生らが派遣学生のサポートに回り、友誼を深めるとともに、プログラムの安全かつ円滑な実施の一助となった。

## ② 質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

### 主たる交流先：中南米

#### 山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校

長期受入希望の南米学生に対する授業や単位互換に関する情報提供により、シラバス等についての各協定校への理解を深めた。

#### 千葉大学

本年度より全学生を対象に始めたマイナー・プログラム及びサーティフィケート・プログラムは、修了要件単位数とは別に取得することで修了書を付与するもので、大学院レベルでは学内初の試みであり、今後の多様な学びのモデルとなるものである。

#### 東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学

派遣学生の語学力（スペイン語及びポルトガル語）については、上達度を共通の指標で図ることができる東外大のCEFR-Jをほか2大学にも導入することで、共通の基準で語学能力の向上を測ることを可能とした。同指標を用いた派遣前後診断において、語学力及び学習継続意欲の向上を確認した。

#### 長岡技術科学大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校

ツィニング・プログラムにおいて、現地及び本学での集中講義のほか、ビデオ会議システムを活用した集中講義を数多く実施した。また、連携4高専間でもビデオ会議システムを活用しながら合同派遣プログラムに係る引率教員・学生間での打合せを頻繁に実施し、事前に情報共有と問題点の検討を行うことでプログラムの質の保証及び効率化を図った。

#### 上智大学、南山大学、上智大学短期大学部

上智大学で長年提供している英語での専門科目、南山大学の実績ある日本語教育、上智大学短期大学部が地域と連携して行ってきた日系人コミュニティへのサービスラーニング活動と、それぞれの強みを融合したプログラムを構築し、国内3大学の連携体制を確立した。これは、国内での大学間連携の一例となり、今後の日本の大学の国際化に資するものである。

### 主たる交流先：トルコ

#### 東京藝術大学

教職員同士の相互派遣・交流によりミーティングを重ね、共同教育プログラム等について綿密な打合せを行い、質保証を伴う国際共同カリキュラムの充実に繋げた。また、エラスムス・プラス協定による支援も含め、国際連携の安定的・持続的な実施に向けた検討を行った。

#### 新潟大学、福島大学

中東工科大学及びアンカラ大学とのエラスムス・プラス締結により大学間学生交換の幅が広がるとともに経済的支援が裏付けられたことで、長期留学を可能とする国際共同研究に基づく学生交換実施への枠組みを形成した。

### ③ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

#### 主たる交流先：中南米

##### 山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校

夏休み期間中の短期受入活動参加に続いてスペイン語集中講義を行ったことにより、日本人学生のスペイン語に対する学習意欲と実践的な会話力が向上した。農学部で受け入れた長期学生には、滞在期間後半にシェアハウスで日本人学生も交えた共同生活をさせることで、日本語習得の一助とした。

##### 筑波大学

交換留学（派遣、受入）において、前川製作所やJICA、日本語学校等におけるインターンシップを組み込み、受入学生に対しては、関係機関において日本的な経営や組織のあり方、研究手法に直接触れる機会を提供し、派遣学生には、異文化の下で活動を展開する日系企業や出先機関の活動に身を置くことで社会的・国際的な対応力を身に付け、将来のキャリアパスにつながる環境を整備した。

##### 東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学

受入学生や既に帰国した派遣学生から現地情報を収集し、派遣予定学生向けの治安マップ、実際の犯罪・トラブル遭遇事例集、生活情報ノートなどを作成し、渡航前に十分な情報提供を行った。また、渡航後もメールやSNSによる相談受付や派遣先大学担当者の協力により、頻繁なフォローアップを行った。

##### 長岡技術科学大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校

モンテレイ大学での中期派遣プログラムについては、外出の際の連絡体制を徹底し、現地との連携を密にした確認・点検を行うことにより、学生の健康面での問題やその他のトラブルにも即座に対応し、プログラム終了後も派遣学生の安全・危機管理体制を継続した。

#### 主たる交流先：トルコ

##### 東京藝術大学

在京イスラエル大使館及び在テルアビブ日本大使館等のバックアップ体制を構築したほか、トルコ・ミマル大学へ交換留學生を派遣して「元留學生」のネットワーク組織構築への取組を進めた。

##### 新潟大学、福島大学

受入プログラムにおいて、日本人学生らが先端農業機械技術や実験、学生間の意見交換など、学生目線で積極的に学生間交流イベントを企画・実行した。派遣プログラムにおいては、学生が学びたい内容を事前に把握し反映することで学生の自主的な参加を促す工夫をした。結果、学生がより積極的に英語でのコミュニケーションを取り、ひいては海外での活動に対する自信が付いたことで、今後の学習意欲の向上に繋がった。

## ④ 事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

### 主たる交流先：中南米

#### 山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校

学部バランスを考慮し各キャンパスで長期学生を受け入れたことで、学部間での情報共有が進んだ。プログラムで制作した「成田ー山形移動マニュアルビデオ」は他キャンパス・他地域の留学生受入に際しても活用されているほか、新入生への留学情報訴求が他のプログラムでも実施されるようになった。人文社会科学部では、初めて考古学以外の分野で南米からの長期学生を受け入れた。

#### 千葉大学

プロジェクトの活動内容や成果のウェブサイト上での公開や報告書の配布により、学内外での広報に努めた。また、在日本メキシコ大使館において大使にプロジェクトの成果を報告し、メキシコ内での広報を依頼した。

#### 東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学

3大学連携事業の一環として行っている「多摩地区合同コロキウム」において、派遣学生が文理協働で研究発表を行い、学科・大学を超えた異分野交流を深め、関係者のみならず多くの学生に対しても事業成果を発信した。

#### 長岡技術科学大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校

企業関係者に対して事業内容を積極的にPRすることで、ツイニング・プログラム学生等の奨学金支援や、学生の渡航費、滞在費等の補助を伴う三者間インターンシップの拡充に繋がった。

### 主たる交流先：トルコ

#### 東京大学、東京工業大学

トルコ政府文化観光広報機関であるYunus Emre Instituteと協同で駐日トルコ共和国大使館でレセプションを開催等することで事業成果の普及・情報共有に努め、プログラムの一層の充実を図った。

#### 東京藝術大学

プログラム内容・実績等をウェブサイト・広報誌等で公開することで国内外に向けて事業成果を発信し、他の芸術系大学等への成果の普及・芸術家育成プログラム等の充実に資するとともに、本学のプレゼンス向上等に繋がった。

#### 新潟大学、福島大学

トルコ人特任教員を講師に一般市民向けにサイエンスカフェを開催し、トルコとトルコの農業についての理解を促した。日本人・トルコ人学生も協力し、参加者にチャイの作り方のデモンストレーションやトルコ茶菓を振る舞うなど、積極的に参加者との交流を持った。

# 特記すべき成果

## 主たる交流先：中南米

### 千葉大学

本プログラムは、およそ90%をメキシコと、その他をパナマと連携し、在京メキシコ大使館とパナマ大使館の協力の下実施している。メキシコIECオフィス等の活動により連携が拡大したメキシコの大学については、新たな協定を締結した上でプログラムへの参加を可能にした。

### 東京大学

日本チリ学術フォーラムを経て、チリ大学との間で学生の派遣・受入を実現させるとともに、共同研究に関する協議を進めた。また、他大学と本学理学系研究科とで部局間協定を締結した。ブラジルとの遠隔授業では、前年度比で約60名参加者が増加した。

## 東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学

2016・17年度の受入学生が事業による日本への留学経験を高く評価され、帰国後にメキシコ外務省アジア太平洋部（1名）、コロンビア日本商工会議所メデジン支所（1名）、（独）国際協力機構ペルー事務所（1名）に就職した。本事業での経験を活かし、日本と中南米の架け橋として活躍しており、プログラムの目的である「グローバル人材の養成」が結実した成果と言える。

### 東京農業大学

これまで長期で派遣した15名のうち10名は事前に短期留学を経験した学生で、多くが中南米の人々の人柄や文化に触れて刺激を受け、農業についてより深く学ぶために長期留学を目指す傾向が高い。また、受入学生のうち1名は、短期受入期間中に環境修復保全に取り組むNGOでインターンシップを経験し、さらに日本の持続的農業について学ぶため本学に戻り、長期受入学生として在籍している。

## 主たる交流先：トルコ

### 東京藝術大学

安全対策・危機管理体制を整備したことにより、原則中止していた学生派遣を再開し、7名の学生が短期・長期に留学した。連携先大学での学修・制作のほか、セラミック・ガラス科、ワークショップ「テーマ：エルサレムのArtivism」への参加など、多彩な活動を実施し、質の保証を伴う国際共同の人材育成プログラムとして、学生はトルコ・イスラエルの芸術文化や中東地域の社会環境等を深く学修した。

### 新潟大学、福島大学

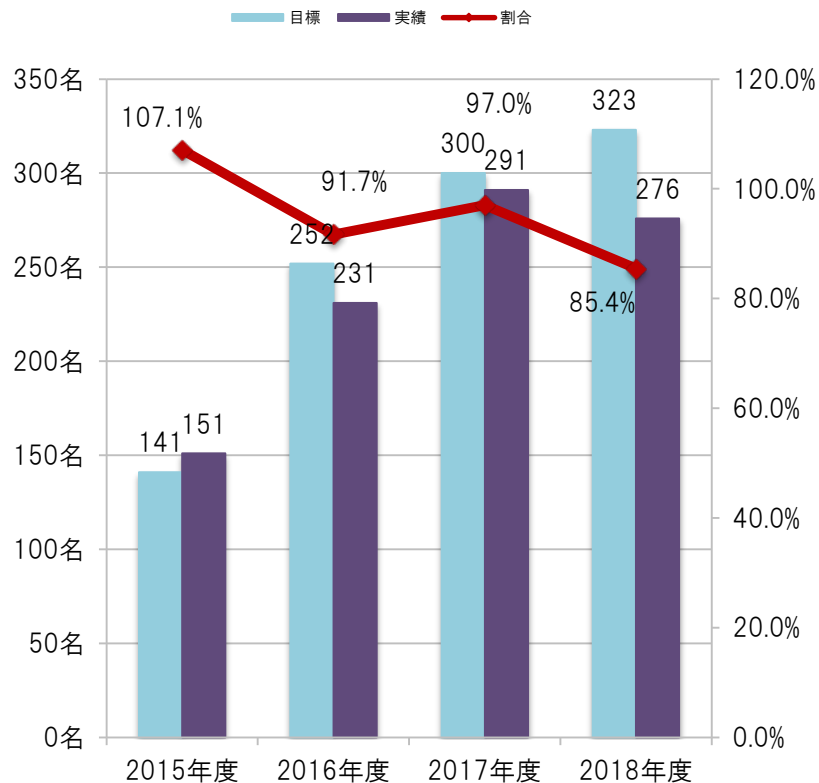
派遣学生のうち、トルコへの派遣経験が就職活動に大きく貢献し、現地に事務所を構える大手企業への就職が内定した学生が、また、受入学生の中には、日本での留学経験を活かして日本企業の現地法人への就職が決まった学生や再来日して日本の企業に就職した学生、あるいは新潟大学を含む日本の大学院に国費留学生として進学した学生がいる。

# 交流学生数の実績（1）

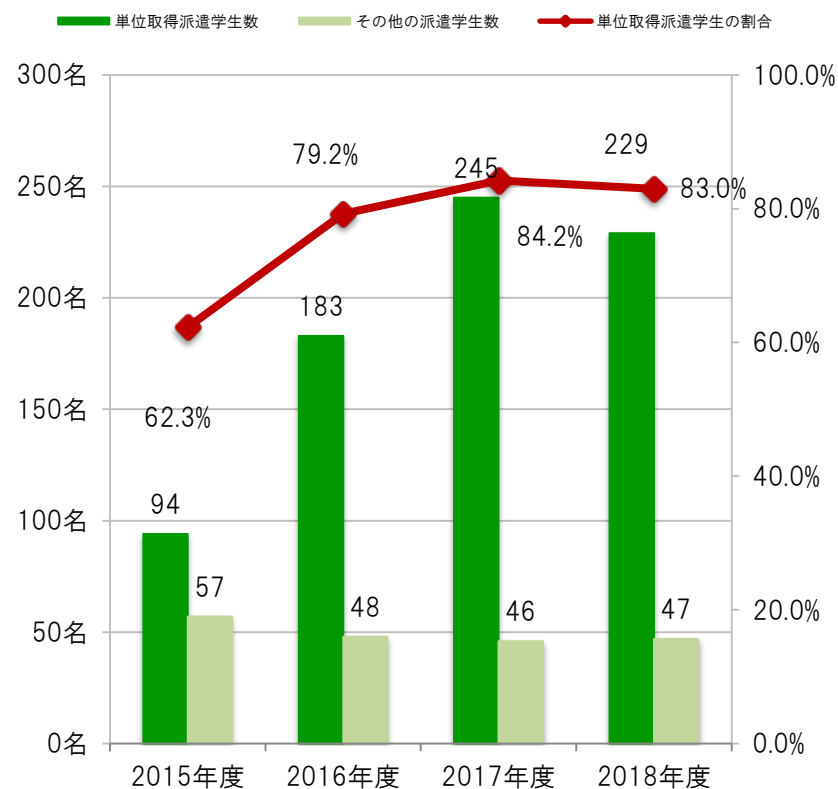
## （1-1）留学した日本人学生数（派遣学生数）〈全11プログラムの年度別推移〉

実績は初年度を除き目標を下回っているが、単位取得を伴う派遣学生の割合は高い水準を維持している。

目標に対する実績・割合



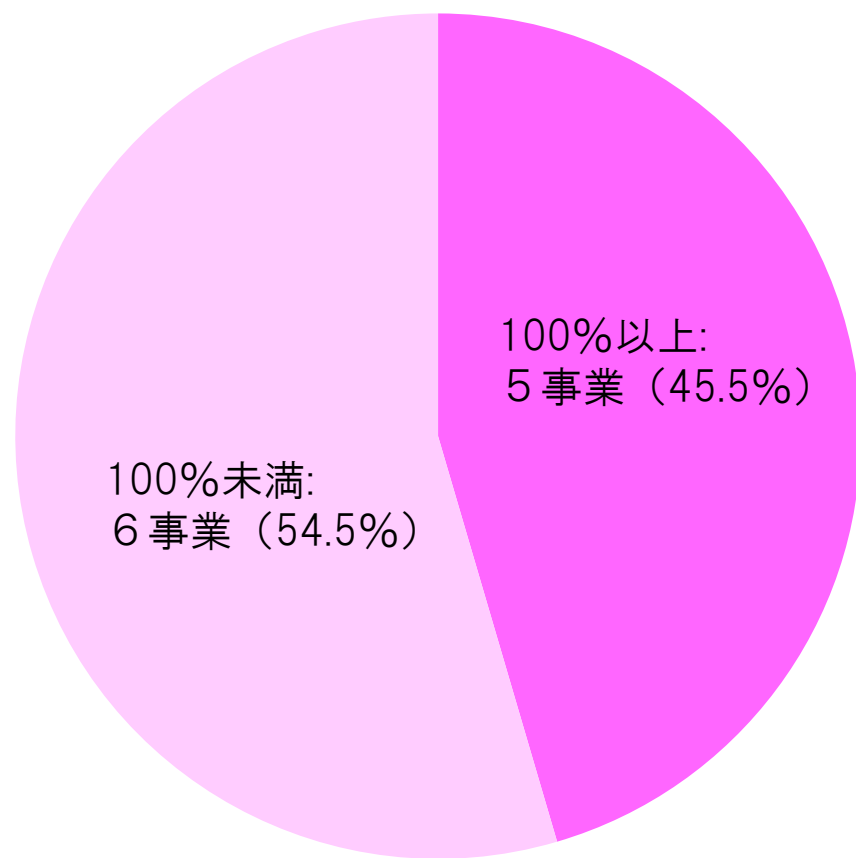
〈参考〉単位取得を伴う派遣学生数・割合





(1-2) 留学した日本人学生数（派遣学生数）〈全11プログラムの2018年度の達成状況〉

目標に対する達成率



※詳細は別表1参照

## (1-3) 交流プログラム（派遣）の進捗状況

### 主たる交流先：中南米

#### 山形大学、山形県立米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校

短期派遣では、ボリビアではJICA、チリでは国立天文台で研修を実施し、各事務所の同年代の日本人実習生の存在が参加学生に強い刺激を与え、ワークショップでは、学生の専攻によりグループ分けすることで、それぞれの専門分野を反映した密度の濃い内容となった。

### 筑波大学

学生は、海外連携大学における教育活動を通して個別の国の開発課題に直接触れるとともに、地球規模課題の解決に向けた専門性と学際性を修得した。その成果を卒業・修士論文等に結実させる学生も多く、協働教育の実質化の実例と言える。また、連携大学との間で指導教員の手配等を通じて協力関係の促進強化が図られた。

### 東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学

派遣学生の現地インターンシップでは、学生の専門性を考慮しつつ安全確保を最優先に日系企業や日本人、日系人が代表の企業を実施先として選定し、それぞれ治安に係るアドバイスやサポート（企業の敷地内宿舎の提供、駐在員による防弾車で送迎等）を得ている。実施内容は単純労働ではなく業務全体を把握できるものとし、企業との間で覚書を締結した上で、安全に実施できるよう万全の注意を払っている。学生の多くが中南米でのインターンシップが自分の将来の職業選択に影響を与えたと回答しているほか、受入企業からも中南米に興味のある学生に自企業について知ってもらいたいきっかけであるとして受入継続の希望が寄せられ、学生と企業双方にとって有益なプログラムとなっている。

### 長岡技術科学大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校

海外派遣の更なる拡充に向け、派遣プログラムの報告会や説明会、短期受入学生との交流会、英語ワークショップ等を開催し、全学的に留学への動機付けを図った。中期派遣プログラムにおける英語研修を次年度から単位認定の正規授業科目として新設した。本プログラムの参加希望学生数は募集定員（10名）の3倍以上に上り、人気のプログラムとして定着している。学部4年時の海外実務訓練や大学院進学後の海外留学に対する意欲の向上に寄与しており、本学における多様かつ段階的な留学機会の提供を可能としている。

### 主たる交流先：トルコ

#### 新潟大学、福島大学

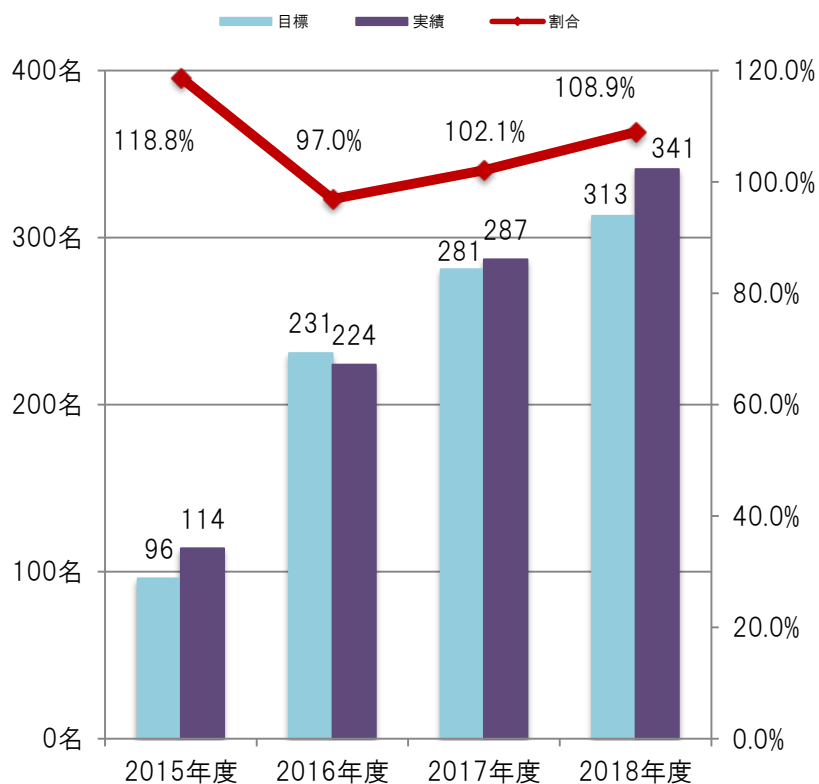
短期派遣では、ほぼ全期間で以前本事業での留学経験のある現地学生が同行し、プログラムの実施や現地での生活をサポートした。また、本事業を受講したトルコ人卒業生の就職先でもある日系企業を実地見学先に選び、日系企業の取組や日本の技術と現地でのニーズのギャップ等について理解を深めた。

## 交流学生数の実績（2）

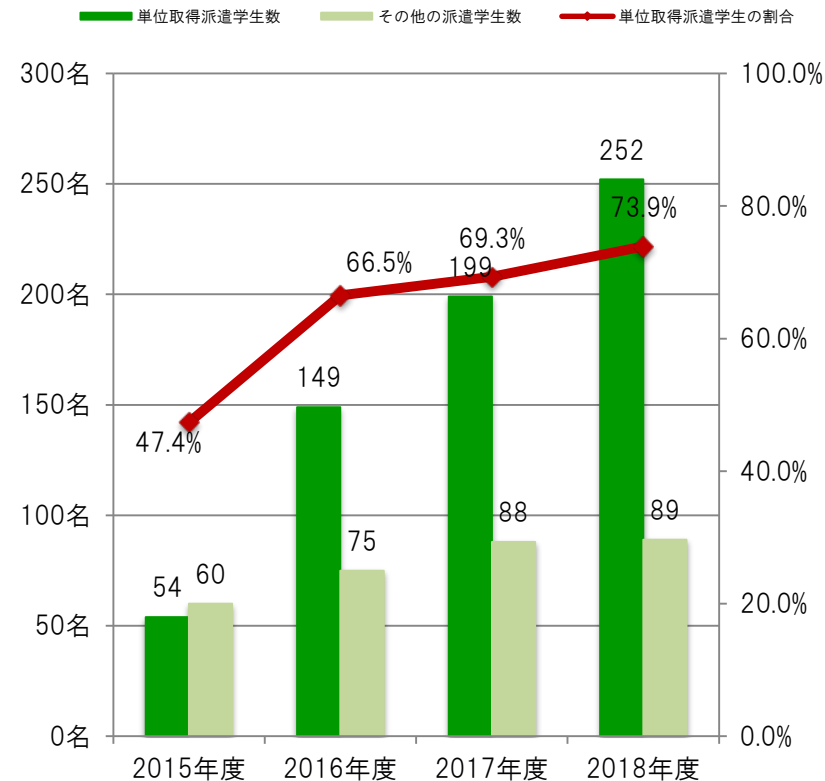
### （2-1）外国人学生数（受入学生数）〈全11プログラムの年度別推移〉

目標の達成率は年度によりばらつきが見られるが、単位取得を伴う受入学生数は事業開始以来一貫して増加している。

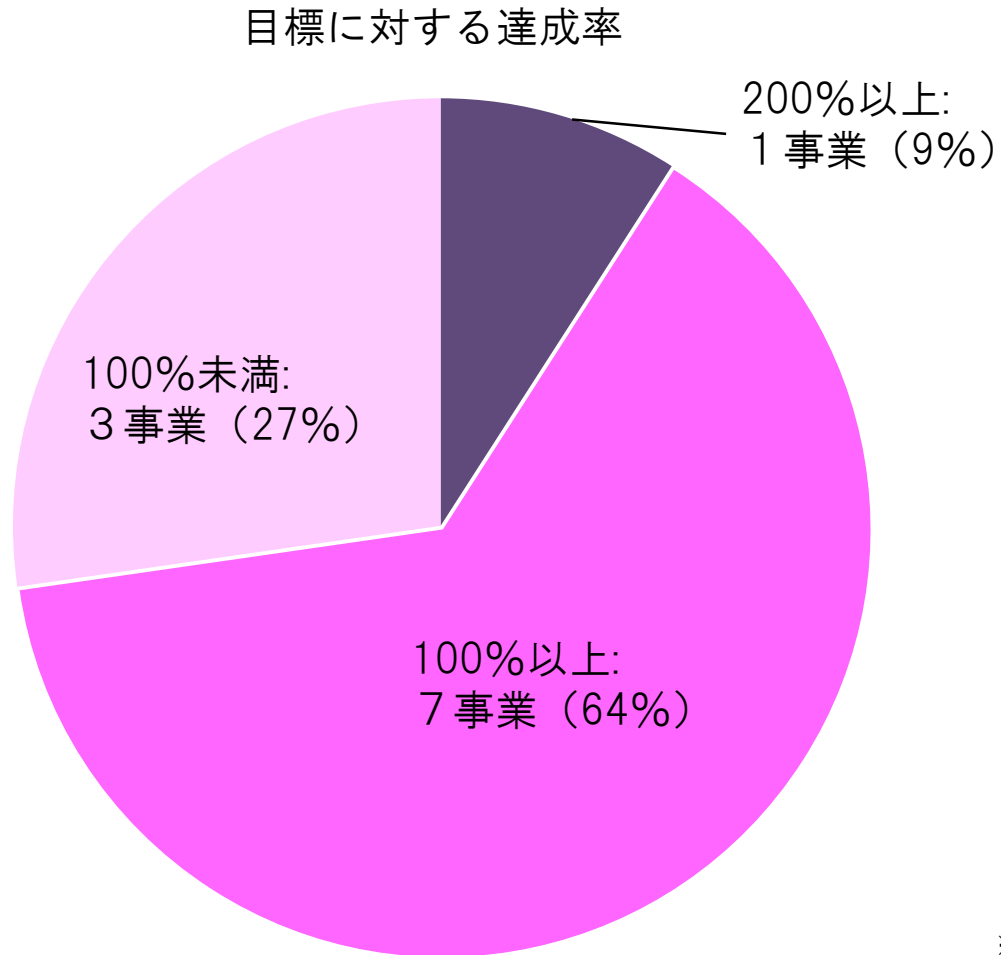
目標に対する実績



〈参考〉単位取得を伴う受入学生数・割合



(2-2) 外国人学生数（受入学生数）〈全11プログラムの2018年度の達成状況〉



## (2-3) 交流プログラム（受入）の進捗状況

### 主たる交流先：中南米

#### 筑波大学

筑波キャンパスでの専門性の高い授業科目の履修を経て、中南米に進出している日本企業でのインターンシップの実施等により、受入学生は日本的経営の一端に直に触れる貴重な経験を積んでいる。帰国後、インターンシップ先であった日本企業の現地会社で卒業に向けた長期のインターンシップを行う例も見られ、事業の趣旨に見合う人材の育成が実現しつつある。

#### 東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学

受入学生のインターンシップにおいて、実施先企業との合意により期間延長や将来の雇用の申し出を受けるなど、企業にとって優秀な外国人材の登用を検討するきっかけとなったり、自社の国際化やCSRのPR材料としてウェブサイト等で情報発信するといった事例が見られた。

#### 長岡技術科学大学、鶴岡工業高等専門学校、茨城工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校

企業との三者間協定に基づき受け入れたメキシコ人学生のインターンシップは民間企業からの経済支援を受けるスキームであり、事業の継続性の観点から非常に有意義である。単位修得を伴う短期留学生数が大幅に増加したことは、現地大学との連携強化に裏付けられており、その後の正規課程としての長期留学も期待できるものである。

#### 上智大学、南山大学、上智大学短期大学部

南山大学での短期日本語集中コースを経て上智大学で専門科目を学ぶ国内マルチキャンパスのプログラムが連携校間で定着し、新たに開講したコースには過去最多の21名が受講した。留学生対象のフォローアップ調査からは、日本語集中コースへの参加は、短期間で日本語や日本文化の基礎を学べるという点だけでなく、共に学ぶ中南米諸国の学生間で横の繋がりができることでも高い満足度を得ていることが分かり、日本と中南米間の学生交流だけでなく、中南米諸国間での学生交流の促進に資している。

### 主たる交流先：トルコ

#### 東京大学、東京工業大学

短期受入学生のうち3名が正規に東京大学に入学・留学した。また、1名が東京工業大学の研究員として来日し、1年以上に渡り共同研究を行った。

#### 新潟大学、福島大学

短期受入では、日本人学生が積極的に協力して各種の文化体験を学生に紹介したり、学生へのインタビュー記事が地元紙に掲載された。また、以前短期で受け入れたトルコ人学生1名が新潟県内の企業でのインターンシップを実施し、2019年度中に同企業に就職する予定である。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(2015年度採択)

(単位:名)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)											
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数					
						(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上	
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
○山形大学、 山形県立米沢栄養大学、 鶴岡工業高等専門学校	「山形・アンスデ諸国」ダブル・トライアングル・プログラム	H27	8	15	187.5	8	15	8	13	0	2	0	0	0	0	0	
		H28	8	8	100.0	8	7	8	6	0	1	0	1	0	0	1	
		H29	15	13	86.7	15	13	12	11	3	2	0	0	0	0	0	
		H30	15	16	106.7	15	16	12	13	3	3	0	0	0	0	0	
		計	46	52	113.0	46	51	40	43	6	8	0	1	0	0	0	
筑波大学	持続的な社会の安全・安心に貢献する トランスパンフィック協働人材育成プログラム	H27	5	9	180.0	5	0	5	0	0	0	9	0	9	0	0	
		H28	12	19	158.3	12	16	7	10	5	6	0	3	0	3	0	
		H29	14	24	171.4	14	24	8	8	6	16	0	0	0	0	0	
		H30	14	16	114.3	14	16	8	8	6	8	0	0	0	0	0	
		計	45	68	151.1	45	56	28	26	17	30	0	12	0	12	0	
千葉大学	ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム	H27	33	35	106.1	33	35	33	33	0	2	0	0	0	0	0	
		H28	51	43	84.3	49	43	49	41	0	2	2	0	0	2	0	
		H29	66	52	78.8	64	52	62	50	2	2	2	0	0	2	0	
		H30	72	55	76.4	69	55	65	53	4	2	3	0	0	3	0	
		計	222	185	83.3	215	185	209	177	6	8	7	0	0	7	0	
主たる交流先・中南米諸国 東京大学	テリ・ブラジルとの連携による理工フロンティア人材の育成	H27	16	12	75.0	0	0	0	0	0	16	12	16	12	0	0	
		H28	15	13	86.7	5	2	3	2	2	10	11	7	11	3	0	
		H29	13	7	53.8	3	3	1	3	2	10	4	7	4	3	0	
		H30	13	4	30.8	3	0	1	0	2	10	4	7	4	3	0	
		計	57	36	63.2	11	5	5	5	6	46	31	37	31	9	0	
主たる交流先・中南米諸国 ○東京外国語大学、 東京農工大学、 電気通信大学	日本と中南米が取組む地球的課題を解決する文理協働型人材養成プログラム	H27	10	12	120.0	10	9	10	9	0	0	3	0	3	0	0	
		H28	25	28	112.0	25	27	10	11	15	16	0	1	0	1	0	
		H29	30	36	120.0	30	36	10	14	20	22	0	0	0	0	0	
		H30	35	37	105.7	35	33	10	15	25	18	0	4	0	4	0	
		計	100	113	113.0	100	105	40	49	60	56	0	8	0	8	0	
○長岡技術科学大学、 鶴岡工業高等専門学校、 茨城工業高等専門学校、 小山工業高等専門学校、 長岡工業高等専門学校	NAFTA生産拠点メキシコとの協働による15歳に始まる技術者教育モデルの世界展開	H27	17	28	164.7	4	17	0	13	4	4	13	11	13	11	0	
		H28	24	35	145.8	14	18	9	13	5	5	10	17	10	17	0	
		H29	25	40	160.0	15	21	9	18	6	3	10	19	10	19	0	
		H30	24	26	108.3	14	9	9	7	5	2	10	17	10	17	0	
		計	90	129	143.3	47	65	27	51	20	14	43	64	0	64	0	
○上智大学、 南山大学、 南山大学短期大学部	人の移動と共生における調和と人間の尊厳を追求する課題解決型の教育交流プログラム	H27	15	15	100.0	10	10	8	8	2	2	5	5	5	5	0	
		H28	42	37	88.1	42	37	26	27	16	10	0	0	0	0	0	
		H29	48	53	110.4	48	53	26	35	22	18	0	0	0	0	0	
		H30	53	51	96.2	53	51	28	30	25	21	0	0	0	0	0	
		計	158	156	98.7	153	151	88	100	65	51	5	5	5	5	0	
東京農業大学	中南米地域における食・農・環境分野の実践的な専門家育成事業	H27	10	10	100.0	10	8	10	8	0	0	2	0	2	0	0	
		H28	20	18	90.0	20	17	13	12	7	5	0	1	0	1	0	
		H29	25	19	76.0	25	19	16	15	9	4	0	0	0	0	0	
		H30	25	21	84.0	25	20	16	14	9	6	0	1	0	1	0	
		計	80	68	85.0	80	64	55	49	25	15	0	4	0	4	0	
主たる交流先・トルコ ○東京大学、 東京工業大学	エネルギーシステムと都市のレジリエンス工学日土協働教育プログラム	H27	14	13	92.9	0	0	0	0	0	14	13	14	13	0	0	
		H28	17	14	82.4	1	0	1	0	0	16	14	16	14	0	0	
		H29	18	16	88.9	4	0	4	0	0	14	16	14	16	0	0	
		H30	18	14	77.8	4	1	4	1	0	14	13	14	13	0	0	
		計	67	57	85.1	9	1	9	1	0	58	56	58	56	0	0	
東京藝術大学	Global Arts Crossing ~中東地域との戦略的芸術文化外交~	H27	11	2	18.2	11	0	8	0	3	0	2	0	0	0	2	
		H28	17	1	5.9	17	1	12	0	5	1	0	0	0	0	0	
		H29	25	9	36.0	25	9	14	9	11	0	0	0	0	0	0	
		H30	28	7	25.0	28	7	14	4	14	3	0	0	0	0	0	
		計	81	19	23.5	81	17	48	13	33	4	0	2	0	0	2	
○新潟大学、 福島大学	経験・知恵と先端技術の融合による、防災を意識したレジリエントな農学人材養成	H27	2	0	0.0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	
		H28	21	15	71.4	21	15	15	15	6	0	0	0	0	0	0	
		H29	21	22	104.8	21	15	15	15	6	0	7	0	7	0	0	
		H30	26	29	111.5	26	21	18	18	8	3	0	8	0	8	0	
		計	70	66	94.3	68	51	48	48	20	3	2	15	2	15	0	
合計			798	807	101.1	697	682	492	500	205	182	101	125	42	124	16	1
総計			1,016	949	93.4	855	751	597	562	258	189	161	198	102	195	16	3

別表2: プログラムごとの受入学生数(2015年度採択)

(単位:名)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)											
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数					左記以外の受入学生数						
						(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		3ヶ月未満		3ヶ月以上	
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績				
○山形大学、 山形県立米沢栄養大学、 鶴岡工業高等専門学校	「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム	H27	5	1	20.0	5	1	4	0	1	1	0	0	0	0	0	
		H28	8	13	162.5	8	13	7	12	1	1	0	0	0	0	0	
		H29	12	13	108.3	12	13	10	10	2	3	0	0	0	0	0	
		H30	12	13	108.3	12	13	10	10	2	3	0	0	0	0	0	
		計	37	40	108.1	37	40	31	32	6	8	0	0	0	0	0	
筑波大学	持続的な社会の安全・安心に貢献する トランスパシフィック協働人材育成プログラム	H27	5	10	200.0	5	0	5	0	0	0	10	0	7	0	3	
		H28	12	19	158.3	12	8	7	1	5	7	0	11	0	11	0	0
		H29	14	22	157.1	14	11	8	0	6	11	0	11	0	11	0	0
		H30	14	17	121.4	14	9	8	0	6	9	0	8	0	8	0	0
		計	45	68	151.1	45	28	28	1	17	27	0	40	0	37	0	3
千葉大学	ポスト・アーバン・リビング・イノベーション・プログラム	H27	39	42	107.7	39	42	39	36	0	6	0	0	0	0	0	
		H28	69	44	63.8	64	44	64	37	0	7	5	0	0	0	5	0
		H29	84	63	75.0	79	63	76	51	3	12	5	0	0	0	5	0
		H30	103	100	97.1	93	100	87	80	6	20	10	0	0	0	10	0
		計	295	249	84.4	275	249	266	204	9	45	20	0	0	0	20	0
主たる交流先・中 南米諸国 東京大学	チリ・ブラジルとの連携による理エフ ロントピア人材の育成	H27	0	2	-	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	
		H28	14	8	57.1	2	0	0	0	2	0	12	8	9	8	3	0
		H29	14	13	92.9	4	0	0	0	4	0	10	13	9	13	1	0
		H30	14	12	85.7	2	0	0	0	2	0	12	12	9	8	3	4
		計	42	35	83.3	8	0	0	0	8	0	34	35	27	31	7	4
○東京外国語大学、 東京農工大学、 電気通信大学	日本と中南米が取組む地球的課題を 解決する文理協働型人材養成プログラム	H27	10	11	110.0	0	0	0	0	0	10	11	10	11	0	0	
		H28	25	27	108.0	15	17	0	0	15	17	10	10	10	10	0	0
		H29	30	31	103.3	17	20	0	1	17	19	13	11	13	11	0	0
		H30	35	37	105.7	20	24	0	3	20	21	15	13	15	1	0	12
		計	100	106	106.0	52	61	0	4	52	57	48	45	48	33	0	12
○長岡技術科学大学、 鶴岡工業高等専門学校、 茨城工業高等専門学校、 小山工業高等専門学校、 長岡工業高等専門学校	NAFTA生産拠点メキシコとの協働による 15歳に始まる技術者教育モデルの 世界展開	H27	0	7	-	0	7	0	0	0	7	0	0	0	0	0	
		H28	20	27	135.0	8	6	0	0	8	6	12	21	12	21	0	0
		H29	25	27	108.0	11	12	0	3	11	9	14	15	14	15	0	0
		H30	26	37	142.3	13	21	0	19	13	2	13	16	13	16	0	0
		計	71	98	138.0	32	46	0	22	32	24	39	52	39	52	0	0
○上智大学、 南山大学、 南山大学短期大学部	人の移動と共生における調和と人間の 尊厳を追求する課題解決型の教育交 流プログラム	H27	4	4	100.0	4	4	0	0	4	4	0	0	0	0	0	
		H28	19	22	115.8	19	22	1	0	18	22	0	0	0	0	0	
		H29	25	26	104.0	25	26	1	1	24	25	0	0	0	0	0	
		H30	26	29	111.5	26	29	1	0	25	29	0	0	0	0	0	
		計	74	81	109.5	74	81	3	1	71	80	0	0	0	0	0	
東京農業大学	中南米地域における食・農・環境分野 の実践的な専門家育成事業	H27	5	4	80.0	5	0	5	0	0	0	4	0	4	0	0	
		H28	10	9	90.0	10	5	4	4	6	1	0	4	0	0	4	
		H29	15	32	213.3	15	14	5	6	10	8	0	18	0	16	0	2
		H30	15	33	220.0	15	14	5	6	10	8	0	19	0	19	0	0
		計	45	78	173.3	45	33	19	16	26	17	0	45	0	39	0	6
主たる交流先・トル コ ○東京大学、 東京工業大学	エネルギーシステムと都市のレジリエ ンス教育日土協働教育プログラム	H27	16	17	106.3	0	0	0	0	0	16	17	16	17	0	0	
		H28	19	21	110.5	4	0	4	0	0	15	21	15	21	0	0	
		H29	19	20	105.3	11	0	10	0	1	0	8	20	8	20	0	0
		H30	19	21	110.5	11	0	10	0	1	0	8	21	8	21	0	0
		計	73	79	108.2	26	0	24	0	2	0	47	79	47	79	0	0
東京藝術大学	Global Arts Crossing ~中東地域と の戦略的芸術文化外交~	H27	10	13	130.0	10	0	9	0	1	0	13	0	12	0	1	
		H28	14	18	128.6	14	18	9	15	5	3	0	0	0	0	0	
		H29	22	18	81.8	22	18	14	13	8	5	0	0	0	0	0	
		H30	23	16	69.6	23	16	13	14	10	2	0	0	0	0	0	
		計	69	65	94.2	69	52	45	42	24	10	0	13	0	12	0	1
○新潟大学、 福島大学	経験・知恵と先端技術の融合による、 防災を意識したレジリエントな農学人材 養成	H27	2	3	150.0	0	0	0	0	0	2	3	2	3	0	0	
		H28	21	16	76.2	21	16	15	15	6	1	0	0	0	0	0	
		H29	21	22	104.8	21	22	15	15	6	7	0	0	0	0	0	
		H30	26	26	100.0	26	26	18	22	8	4	0	0	0	0	0	
		計	70	67	95.7	68	64	48	52	20	12	2	3	2	3	0	0
合計			709	755	106.5	568	538	347	280	221	258	141	217	114	192	27	25
合計			212	211	99.5	163	116	117	94	46	22	49	95	49	94	0	1
総計			921	966	104.9	731	654	464	374	267	280	312	163	286	27	26	